

審判メカニクス ハンドブック

第6版

日本野球協議会
オペレーション委員会
審判部会

改訂版(第6版)発行にあたり

2002年11月に、わが国プロ・アマ統一の審判メカニクスの教本として『審判メカニクスハンドブック』の初版を発行して以来、19年が経過し、その間に一部改良を加えながら、改訂版を発刊してきました。

ようやく、このハンドブックも多くの関係者の方に広く認知され、基本の審判メカニクスとして、浸透してきているところです。開催が1年延期された『東京オリンピック』における『侍ジャパン』悲願の金メダル獲得を契機として、さらに日本のプロ・アマ団体が一丸となって、野球競技を盛り上げ、その一翼を担う審判員を増やすためにも、基礎となる『形』や『動き』における教材として、引き続き、指導・育成に役立ててもらいたいと考えています。今回の第6版発刊にあたり、『より親切に、より分かりやすく、より実践的に』を主眼に置き、海外の動向も踏まえながら、さらに内容の充実を図ってきましたが、今後も、より深化した“審判員ハンドブック”作りに取り組んでいきたいと思えます。

このハンドブックが、わが国プロ・アマ統一の審判マニュアルとして信頼されるとともに、さらに広く活用され、審判技術の向上につながっていくことを期待しています。

2022年2月

日本野球協議会

オペレーション委員会 審判部会

変更点 (2022.2)

1. ジェスチャーの基本

- ① 『球審の構え方』や『アウト』・『ストライク』の手の置き方、『プレイ』のかけ方等のイラストについて、一部修正を加えた。
- ② 打球の判定における『ファウルボール』のコールを『ファウル』に改めた。
- ③ 『妨害』や『走者の追い越し』と判断した場合、最初に明示（ポイント）する手を右手に改めた。

2. 二人制メカニクス

- ① 章のはじまりの【注】として、以降で用いられている『ステップアップ・ターン（フェイス・ザ・ボール）』および『ピポット（ターン）』の説明を加えた。
- ② 重要な技術の項目にある『声のコミュニケーション』として、打球判定における『フェアボール』の際、必要に応じたコール・ジェスチャーの手法を加筆した。
- ③ 重要な技術の項目に、『ポスト・ピッチ・ステップ』についての手法を加筆した。
- ④ 塁審（BU）が内野内で種々のプレイに対応する『ワーキングエリア』について、具体的な区画図を挿入した。
- ⑤ 無走者（5）内野ゴロの際、塁審がダイヤモンドの外から判定する場合の球審（PL）および塁審（BU）の動き方を【付記】として加えた。

3. 三人制メカニクス

- ① 章のはじまりの【注】として、二人制メカニクスの章のはじまりの【注】に記述していた『リミング』の説明を加えた。

4. 四人制メカニクス

- ① 走者一塁の際、三塁塁審が打球を追った場合、2アウトのときは、球審が本塁に留まることを選ぶことができる旨、【付記】として加えた。
- ② 走者三塁の際、ダイヤモンドの外に位置していた二

塁塁審が打球を追った場合、2アウトのときは、三塁塁審が内野内に入って、打者走者の二・三塁でのプレイに備える動き方を選ぶことができる旨、【付記】を改めた。

変更点 (2017.2)

1. 二人制メカニクス

- ① 塁審が内野内にいる際、球審が打球判定する場合は右翼手からライン方向の打球と左翼手からライン方向の打球のそれぞれで発声の方法を明記した
- ② 走者一塁、内野ゴロダブルプレイの際、塁審はステップワークを見直した
- ③ 一塁けん制の際、塁審のステップワークを見直した

2. 三人制メカニクス

- ① 三人制審判の取り決め事項に、塁審が打球を追うケースを『一塁手または三塁手の後方（内野外）に位置した場合』と『内野内に位置した場合』に分けて追加した
- ② 三人制審判の取り決め事項に、ハーフスイングの判定について、右打者は一塁塁審、左打者は三塁塁審が行うことと明記した
- ③ 塁審がハンズ・オン・ニーズ・セットポジションの構えをするタイミングについて、『投手がボールを持って投手板に立ったとき』と変更した
- ④ 走者二塁、二・三塁の際、外野への打球の各審判員の責任範囲について、ノーアウトまたはワンアウトの場合と、ツーアウトの場合に分けて記載した
- ⑤ 各ケースにおいて、各審判員が触球を確認する走者と、どの塁でどの走者のプレイに備えるかを明確にした（四人制メカニクス共通事項）
- ⑥ 無走者または走者一塁の際、一塁塁審が本塁のプレイに備えて本塁に向かうタイミングについて、打者走者または一塁走者が三塁に向かったときとした（四

人制メカニクス共通事項)

- ⑦ 走者一・二塁で左翼手より左側に打球が飛び、二塁走者がタッグアップした場合、球審が三塁でのプレイに備えると変更した
- ⑧ 走者三塁および満塁のケースにおいて、一塁塁審のリミングの動きを追加した

3. 四人制メカニクス

- ① 四人制メカニクスの取り決め事項に、塁審が打球を追うケースと、その他の注意事項を追加した
- ② 走者一塁で一塁塁審が打球を追ったとき、一塁走者の一塁への帰塁のプレイは、二塁塁審が担当することに変更した
- ③ 走者三塁のケースに、2アウトの場合の各審判員の動きなどを追加した
- ④ 走者一・三塁のケースで、二塁塁審が外側に位置した場合および内野手が前進守備の場合、二塁塁審は一塁走者の盗塁に備え、一塁と二塁を結ぶラインの延長線上に立つこととした

変更点 (2012.11)

- 1. 基本となる二人制メカニクスをメカニクスの最初に持ってきた
- 2. ライン付近の打球、反則打球、走者の追い越しの際の基本的なジェスチャーについて加えた
- 3. 故意落球のジェスチャーの手順について修正した
- 4. 打者の守備妨害におけるイラストを修正した
- 5. 三人制にもワーキングエリアを追加した
- 6. 三人制、走者一塁の際の盗塁の図を追加した
- 7. 三人制、走者一・二塁で明らかに送りバントが予想される場合の動きを追加した
- 8. 三人制、走者二塁および走者二・三塁の場合の審判員が最初に立つ位置をアウトカウントによって変えることとした
- 9. 四人制、内野ゴロの場合に何のために球審が 45 フィート

ラインまで動くのか付記した

変更点 (2009.11)

1. リミングの動きを追加
2. 四人制、走者三塁で三塁塁審が打球を追った場合のメカニクスの変更
3. 四人制、走者一・二塁で中堅手より右側の打球を一塁塁審が追った場合の一塁走者のタッグアップを球審の責任に変更
4. 二人制メカニクスのほぼ全面改正
5. 六人制メカニクスを新たに追加
6. ライナーの打球判定の責任区分を図示
7. 外野手正面（背後）の打球の責任区分を図示

変更点 (2005.11)

1. 走者二塁および走者一・二塁で三塁塁審が打球を追った場合のタッグアップの見方
2. 打撃妨害の処置
3. 故意落球の処置
4. 内野へのラインドライブ

変更点 (2002.11)

1. 一塁塁審、三塁塁審の立つ位置
2. 二塁塁審が中に入るケース
3. 走者がスコアリングポジションにいる場合、球審は本塁ステイを原則とする。（アウトカウントに関係なく）
4. タッグアップの見方
5. 内野手が前進守備のケースを追加
6. リミングの動きを追加
7. ハーフスイングの際の確認方法
8. 四死球の際のジェスチャーの変更

CONTENTS

目次

第1章	ジェスチャーの基本.....	11
第2章	二人制メカニクス.....	59
第3章	三人制メカニクス.....	129
第4章	四人制メカニクス.....	195
第5章	六人制メカニクス.....	251
巻末資料		255

日本の野球団体関係図

日本野球協議会 オペレーション委員会 審判部会

旧全日本野球会議 審判技術委員会歴代委員名簿
